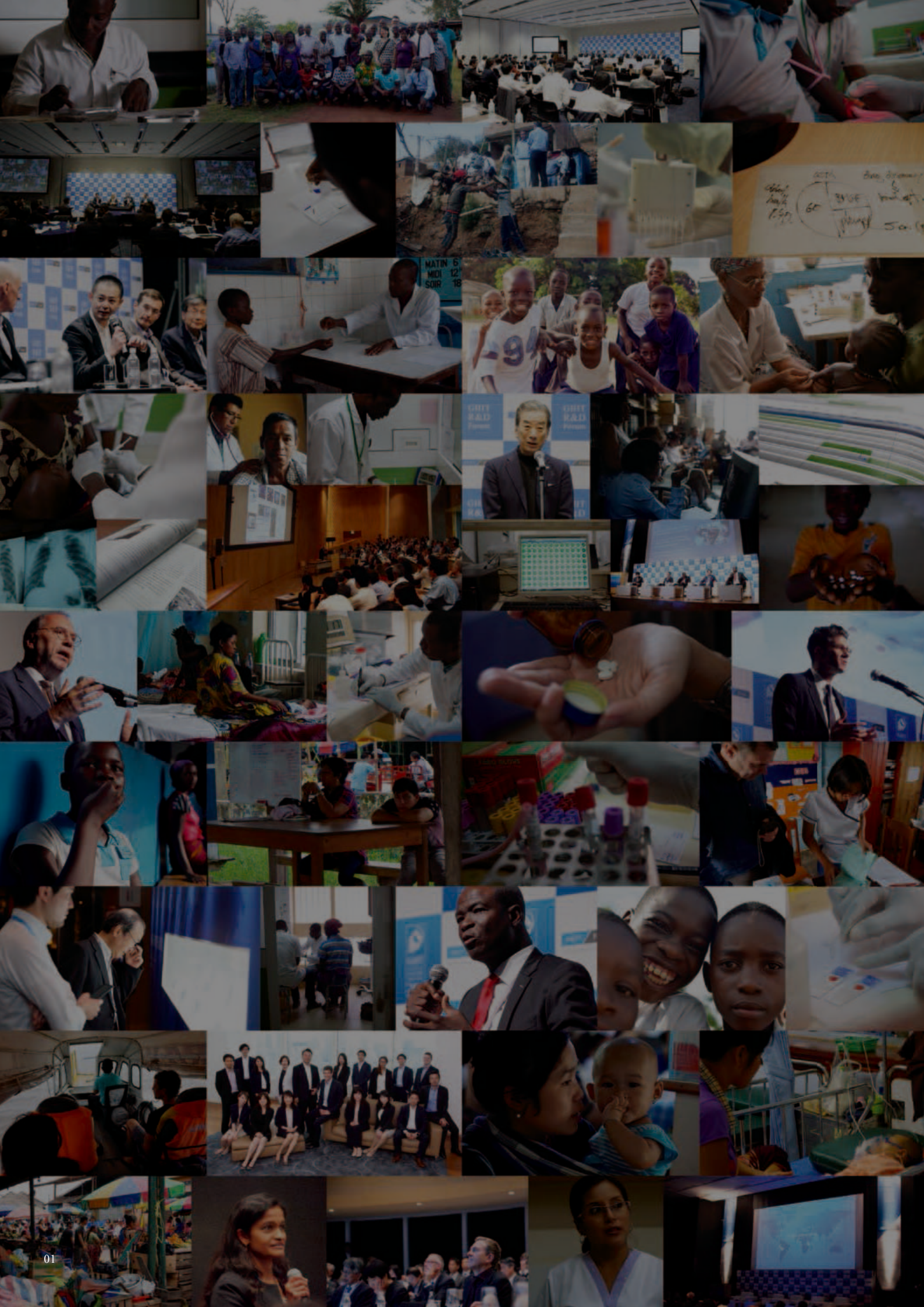
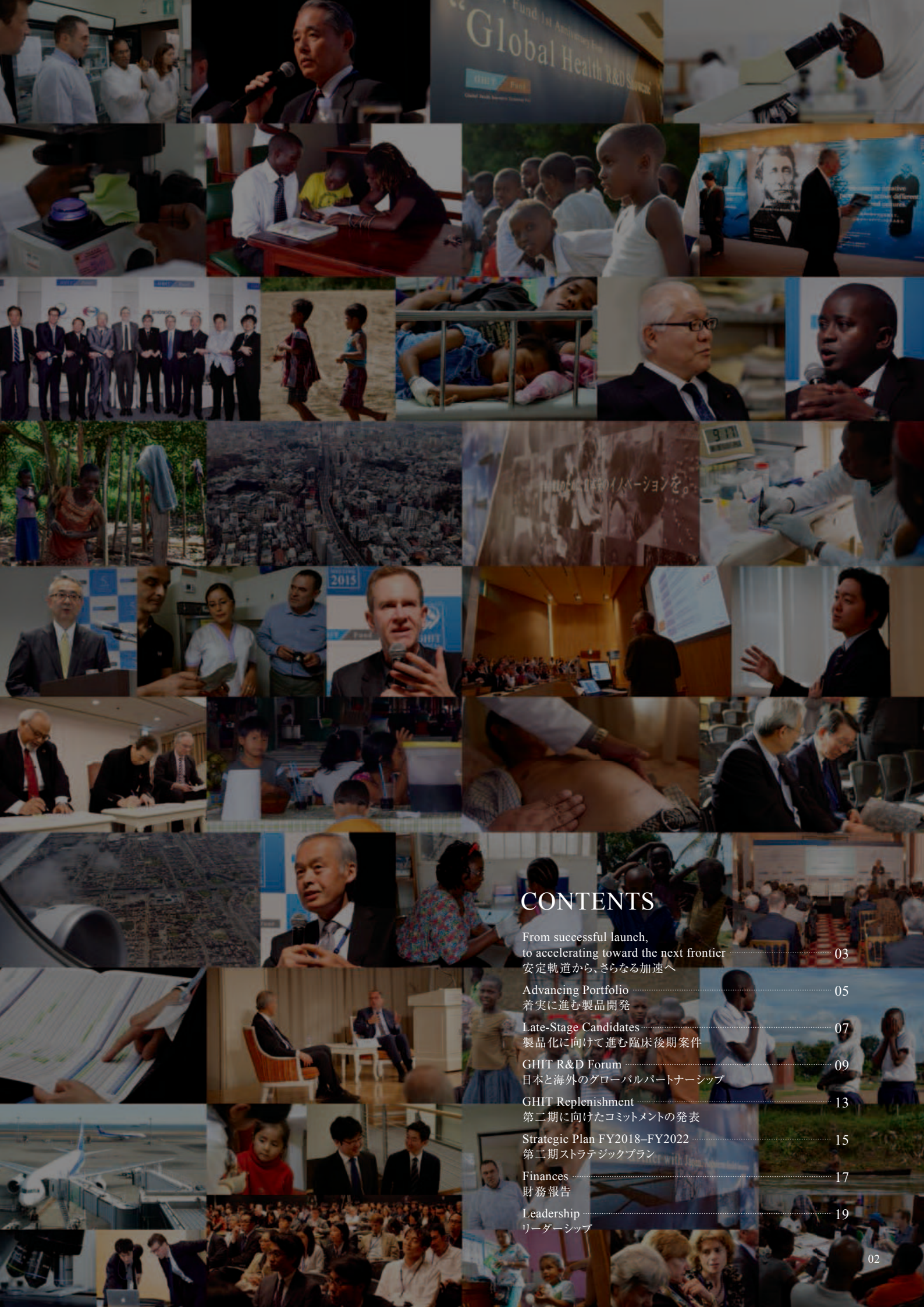
GHIT Fund
ANNUAL REPORT
2017

5th Anniversary

J


MATIN 6
MIDI 12
SOIR 18
GHIT R&D Forum



CONTENTS

From successful launch,
to accelerating toward the next frontier 03
安定軌道から、さらなる加速へ

Advancing Portfolio 05
着実に進む製品開発

Late-Stage Candidates 07
製品化に向けて進む臨床後期案件

GHIT R&D Forum 09
日本と海外のグローバルパートナーシップ

GHIT Replenishment 13
第二期に向けたコミットメントの発表

Strategic Plan FY2018–FY2022 15
第二期ストラテジックプラン

Finances 17
財務報告

Leadership 19
リーダーシップ

From successful launch, to accelerating toward the next frontier

安定軌道から、さらなる加速へ

GHIT Fundの第一期（2013年度～2017年度）では、日本および世界各地のパートナーとともに強固な製品ポートフォリオを築き上げることができました。私たちは、これを大変誇りに思います。この5年間の成果により、グローバルヘルスR&Dのパイプラインはかつてないほど充実したものになりました。世界中の患者さんにより豊かな生活をもたらすために、日本のイノベーションが最大限に活用されているのです。

グローバルヘルスR&Dの取り組みは、世界が推進するユニバーサル・ヘルス・カバレッジ、持続可能な開発目標や人間の安全保障の実現にも大きく貢献しています。また、CEPI（Coalition for Epidemic Preparedness Innovations）やRIGHT（Research Investment in Global Health Technology）のような、GHIT Fundの先駆的な官民パートナーシップのモデルを活用した革新的な機関が新たに誕生し

ていることは大変光栄なことです。さらに、GHIT Fundは第二期（2018年度～2022年度）に向けた資金を確保することができたことにより、製品化を実現させるという当初の約束を果たすための私たちの規模と能力はこれまで以上に拡大しています。

こうした実績の背景には、GHIT Fundのビジネスモデルがうまく機能してきたことや、GHIT Fundが製品開発を推進する触媒となりながら、投資機関としての役割を果たしてきたことがあると考えています。しかし、本当の成功とは、人々の健康や命を守るために効果的な治療薬、ワクチン、診断薬を必要とするすべての人々に購入しやすい価格で届けることです。

私たちがこうして第一期を無事終えることができたのは、資金拠出パートナーとスポンサー、評議会、理事会、選考委員会、アドバイザー、そして製品開発パートナーの比類なき先見性、エンゲージメント、創造性、厚いご支援のおかげです。私たちは、満ち溢れたエネルギー、楽観性、そして新たな決意を胸に第二期へと進みます。

これから真に重要な仕事が始まりますが、私たちにはその準備が整っています。

Kiyoshi Kurokawa

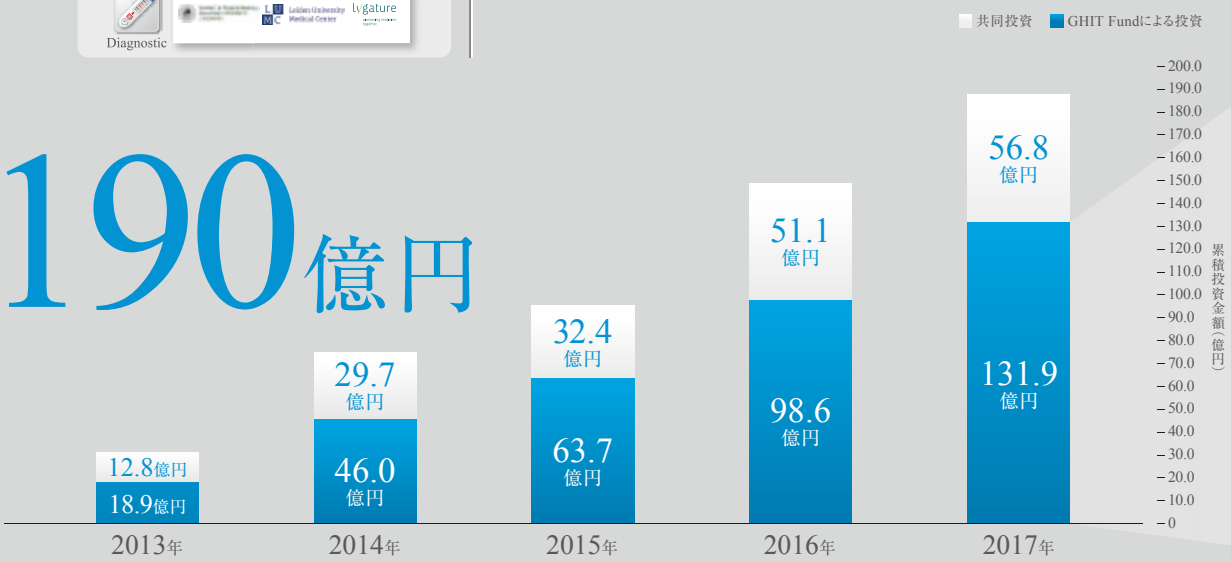
黒川 清
GHIT Fund 会長

スリングスビー BT
GHIT Fund CEO

Advancing Portfolio 着実に進む製品開発

探索研究

	標的研究プログラム	スクリーニングプログラム	ヒット・トゥ・リードプログラム
マラリア	Vaccine: 愛媛大学 / mvi PATH Diagnostic: 熊本高専 / Biomedical Primate Research Centre Vaccine: PennState College of Medicine / ANTIGEN	Drug: 第一三共RDノバール株式会社 / MMV Drug: Eisai / MMV Drug: astellas / MMV	Drug: Eisai / MMV Drug: Takeda / MMV Drug: Mitsubishi Tanabe Pharma / MMV Drug: Takeda / MMV / Bill & Melinda Gates Foundation Drug: Sumitomo Dainippon Pharma / MMV
結核	Drug: RIKEN Vaccine: 東京大学 / UM / INCMNSZ / Universidad de Cartagena	Drug: OPBIO / TB ALLIANCE Drug: CHUGAI / TB ALLIANCE Drug: HyphaGenesis / TB ALLIANCE Drug: astellas / TB ALLIANCE	Drug: Daiichi-Sankyo / TB ALLIANCE Drug: Takeda / TB ALLIANCE
顧みられない熱帯病	シャーガス病、リーシュマニア症 Drug: RIKEN / SGC / McGill / MMV / DNDi	Drug: Eisai / DNDi Drug: 北里研究所 / DNDi Drug: 第一三共RDノバール株式会社 / DNDi	Drug: Eisai / SHIONOGI / Takeda / astellas / DNDi Drug: Daiichi-Sankyo / DNDi
	シャーガス病 Drug: AIST	リーシュマニア症 Drug: Eisai / DNDi	
	住血吸虫症 Diagnostic: Leiden University Medical Center / Lygature		



このセクションでは、便宜上、1米ドル ＝ 100円で計算しています。

As of March 2018

非臨床試験

製品開発プログラム

- Drug — Eisai, BROAD, MMV
- Diagnostic — Panasonic, AIST, malaria
- Drug — Daiichi-Sankyo, MMV
- Drug — Eisai, MMV
- Vaccine — CFS, UF UNIVERSITY of FLORIDA, alligy
- Drug — Eisai, BROAD, THE UNIVERSITY OF CHICAGO, COLORADO STATE UNIVERSITY, TB ALLIANCE

臨床試験

製品開発プログラム

- Vaccine — OSAKA UNIVERSITY, MTR, Nobel pharma — Phase Ib
- Drug — Takeda, MMV — Phase IIb
- Drug — Eisai, MMV — Phase IIa
- Vaccine — 東京医科歯科大学 — Phase IIb
- Diagnostic — FUJIFILM, FIND

土壌伝播寄生虫症

- Drug — AJINOMOTO, meiji, PATH

デング熱

- Vaccine — NIID
- Drug — CHUGAI

リーシュマニア症

- Vaccine — McGill
- Vaccine — CHARITÉ, MOLOGEN AG
- Drug — GeneDesign, Inc., DNDi
- Drug — Takeda, DNDi

シャーガス病

- Drug — Eisai, DNDi — Phase IIb

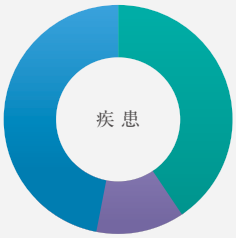
マイセトーマ

- Drug — Eisai, DNDi — Phase IIb

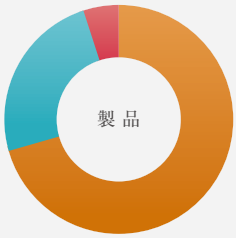
住血吸虫症

- Drug — astellas, ligature, MERCK, SCI, Swiss TPH — Phase IIb

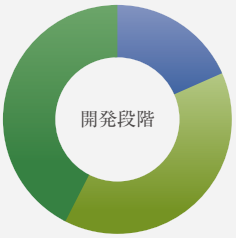
第一期（2013年度～2017年度）の投資概要



- マラリア 40.6%
- 結核 12.5%
- 顧みられない熱帯病 46.9%



- 治療薬 70.6%
- ワクチン 24.5%
- 診断薬 4.9%



- 探索研究 18.6%
- 非臨床試験 39.0%
- 臨床試験 42.4%

74件
投資案件
進行中 49件
終了済 25件

103機関
製品開発パートナー
日本 42件
海外 61件

7件
第I相試験を開始

2件
概念実証（POC）を達成

Late-Stage Candidates

製品化に向けて進む臨床後期案件

SJ733

疾 患：マラリア
製 品：治療薬
開発段階：第Ⅱ相試験（Phase Ⅱa）
実施国：検討中

SJ733は、高い薬効及び経口有効性、安全性、耐性化が起こりにくい性質を有するジハイドロイソキノロン類化合物です。現在、他の抗マラリア薬との併用治療法を視野に入れた、第Ⅱ相試験の準備を行っています。

BK-SE36/CpG

疾 患：マラリア
製 品：ワクチン
開発段階：第Ⅰ相試験（Phase Ⅰb）
実施国：ブルキナファソ

ワクチン応答率を高め、免疫力を増強するため、アジュバントを加えたマラリアワクチンBK-SE36/CpGの安全性と免疫増強能力を評価します。マラリア感染を経験してきた健康なアフリカの成人および小児において評価することを目的としています。

DSM265

疾 患：マラリア
製 品：治療薬
開発段階：第Ⅱ相試験（Phase Ⅱb）
実施国：検討中

DSM265は単回投与で治療効果や化学的予防効果をもたらすことが期待されている抗マラリア薬です。小児に適した製剤開発を目指し、現在の経口製剤の最適化、投与量の低減などを行っています。

BOLIVIA

ボリビア
E1224 シャーガス病 / 治療薬

E1224

疾 患：シャーガス病
製 品：治療薬
開発段階：第Ⅱ相試験（Phase Ⅱb）
実施国：ボリビア

慢性不確定期のシャーガス病成人患者の治療に対するE1224とベンズニダゾールを使った様々な薬剤投与計画を評価します。経口剤で使い易く、安全、かつ買い求めやすい値段の、新しく効果の高い革新的なシャーガス病治療薬の開発を目的としています。

8 Candidates

Abraham Ali/Imageworks-DNDi

E1224

疾 患：マイセトーマ
製 品：治療薬
開発段階：第Ⅱ相試験（Phase Ⅱb）
実施国：スーダン

エーザイ株式会社が発見したアゾール系抗真菌薬ホスラブコナゾールは、マイセトーマ起炎菌に対する強力な抗真菌活性を示す有望な新薬です。スーダン・ハルツームにあるWHOマイセトーマ共同センターで、成人患者を対象とする第Ⅱ相試験を実施中です。

Eisai　DNDi Drugs for Neglected Diseases initiative

DAR-901

疾 患：結核
製 品：ワクチン
開発段階：第Ⅱ相試験（Phase Ⅱb）
実施国：タンザニア

DAR-901はMycobacterium Obuenseをベースにした追加接種を目的とする全細胞性不活化ワクチンで、開発中の結核ワクチンのうち、人において唯一有効性が示されているものとされています。

国立大学法人 東京医科歯科大学　GEISEL SCHOOL OF MEDICINE AT DARTMOUTH

BURKINA FASO
ブルキナファソ
BK-SE36/CpG マラリア / ワクチン

SUDAN
スーダン
E1224 マイセトーマ / 治療薬

KENYA
ケニア
PZQ 住血吸虫症 / 小児用治療薬

IVORY COAST
コートジボワール
PZQ 住血吸虫症 / 小児用治療薬

TANZANIA
タンザニア
DAR-901 結核 / ワクチン

SOUTH AFRICA
TB-LAM 結核/診断薬

Arne Hoel_World Bank

TB-LAM

疾 患：結核
製 品：診断薬
開発段階：製品バリデーション
実施国：南アフリカ

TB-LAMは、主に結核が重症化しやすいHIV感染者の結核を検査するための、尿を検体として用いる高感度の迅速診断キットです。南アフリカで採取された検体をベースにバリデーション試験を開始しています。

FUJIFILM　FIND

PZQ

疾 患：住血吸虫症
製 品：小児用治療薬
開発段階・実施国：
第Ⅱ相試験（Phase Ⅱb）コートジボワール、
第Ⅲ相試験（Phase Ⅲ）ケニア

小児用プラジカンテルコンソーシアムが開発した住血吸虫症の小児用製剤（PZQ）は、就学前児童、乳幼児を含む低年齢の児童に簡易に投薬でき、口腔内崩壊や味の改善を含め服薬時の利便性を向上させた製剤です。

astellas　farmanguinhos　lygature　MERCK　SCI Schistosomiasis Control Initiative　Swiss TPH

GHIT R&D Forum

日本と海外のグローバルパートナーシップ

December 8, 2017

2017年12月8日に初開催されたGHIT R&D Forum（以下、R&D Forum）には、80以上の国内外の企業、研究機関、大学、国際機関、NGO、NPO等が参加しました。R&D Forumでは、GHIT Fundから投資を受けた製品開発パートナーが、製品開発の進捗状況、プロジェクトから得られた教訓、課題や機会、今後の計画について発表を行いました。パネルディスカッションでは、適切な製品開発パートナーの探し方、パートナーシップを成功に導く秘訣、低中所得国における臨床試験の課題、資金提供機関間の効果的な連携のあり方について、活発な議論や意見交換が行われました。

2013年にGHIT Fund が設立される以前は、グローバルヘルスR&Dに携わる日本の機関は少なく、海外の機関と情報共有をする機会や、製品開発の事例は数えるほどしかありませんでした。この5年の間に、海外の機関と連携しGHIT Fundの投資プログラムに参画した日本の機関は40を超えました。GHIT Fundの製品開発パートナーは世界各地に拡大し、製品開発を加速させています。

GHIT Fundは、資金調達、投資、製品開発、製品供給に至るバリューチェーンを効果的に結びつけることによって、グローバルヘルスR&Dのエコシステムを日本に構築し、国際的にも認知された機関として、世界との連携を進めています。GHIT Fundを通じて、世界第3位の新薬創出国である日本の優れた技術、専門知識、ノウハウが海外の製品開発パートナーと直接結びつき、オープンイノベーションによって新たな価値とインパクトが生み出されています。

GHIT Fundは単なる組織という枠を超えて、グローバルヘルスR&Dに携わる日本と海外の機関を結びつけるネットワークのハブとして機能しています。また、国際的な連携やオープンイノベーションを推進し、製品開発と供給に関する明確な目標を掲げた対話を促進します。

Moderator Reflections モデレーターから

鹿角 契

GHIT Fund 投資戦略 兼 ガバメント・リレーションズ　シニアディレクター

日本の機関のグローバルヘルスR&Dへの関わり方は、この5年間で一変しました。今回のR&D Forumを通じて、研究者の揺るぎない信念と情熱は世界共通で、その力がグローバルヘルスR&Dを突き動かしているということを改めて感じました。このような機会が、日本と海外の新たなパートナーシップの構築や、パートナー間での議論の深化を促すことに貢献することを願っています。

浦辺 隼

GHIT Fund 投資戦略・企画 兼 マネジメント　ディレクター

R&D Forumでは、私たちが想像していた以上にプロジェクトや研究開発段階を越えた活発な議論が行われたことは驚きであると同時に、大きな喜びでもありました。このように日本と海外の機関が積極的に連携することで、日本という枠組みを超えて、グローバルな舞台の中にGHIT Fundのポートフォリオを位置付けることができるだけでなく、資金調達や投資、アクセスに関して、より大きなインパクトを生み出せると確信しています。

Participating Organizations 参加機関

Ahmadu Bello University (ABU Zaria)
Astellas Pharma Inc.
Australian Department of Foreign Affairs and Trade
Bayer
Bill & Melinda Gates Foundation
CellFree Sciences Co., Ltd.
ChemRoutes Corporation
Chiba-Nishi General Hospital
Chugai Pharmaceutical Co., Ltd.
Daiichi Sankyo Co., Ltd.
Daiichi Sankyo RD Novare Co., Ltd.
Daiken Medical Co. Ltd.
Drugs for Neglected Diseases *initiative* (DND*i*)
Drugs for Neglected Diseases *initiative* Japan (DND*i* Japan)
Ehime University
Eisai Co., Ltd.
Eisai Inc.
Embassy of Canada to Japan
EU-Japan Centre for Industrial Cooperation
European & Developing Countries Clinical Trials Partnership (EDCTP)
European Vaccine Initiative (EVI)
Fujifilm Corporation
Global Alliance for TB Drug Development (TB Alliance)
GSK Japan
HanaVax Inc
Health and Global Policy Institute
Hoshi University
Inc., Ohbi
Geisel School of Medicine at Dartmouth
Institute of Molecular Biology and Genetics of the National Academy of Sciences of Ukraine
International AIDS Vaccine Initiative (IAVI)
International Vaccine Institute (IVI)
Janssen Pharmaceutical K.K.
Japan Agency for Medical Research and Development (AMED)
Japan Anti-Tuberculosis Association, Research Institute of Tuberculosis
Japan Innovation Network
Johnson & Johnson
Jubilant Biosys Ltd.
Keio University School of Medicine
Kitasato Daiichi Sankyo Vaccine Co., Ltd.
Kitasato University School of Medicine
Kyoto University
Lygature
Malaria No More Japan
Medicines for Malaria Venture (MMV)
Medicines Patent Pool
Meiji Seika Pharma Co., Ltd.
Ministry of Foreign Affairs of Japan
Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan
Mitsubishi Tanabe Pharma Corporation
Nagoya University
National Center for Global Health and Medicine (NCGM)
National Institute of Infectious Diseases
National University of Singapore
Nobelpharma Co., Ltd
Non-Profit Organization Center for Application of Chemical Compounds
Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine
Osaka City University
Osaka University
Otsuka Pharmaceutical Co., Ltd.
PATH
Pfizer Japan
Pharma-Assist
Monash University
RIKEN Center for Life Science Technologies (CLST)
Shionogi & Co., Ltd.
Sophia University
St. Luke's Graduate School of Public Health
St. Luke's International University
Sumitomo Dainippon Pharma Co., Ltd.
Takeda Pharmaceutical Company Limited
Technology Cross Point Laboratory
Institute of Medical Science, The University of Tokyo
Tokyo Institute of Technology
Tokyo Medical and Dental University
Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science
Toyama Chemical Co., Ltd.
Tufts Medical Center
United Nations Development Programme (UNDP)
Unitaid
University of Namibia
VLP Therapeutics
Wellcome Trust
World Intellectual Property Organization (WIPO)

Participant Reflections 参加者から

「R&D Forumを通じて、他の資金提供機関や製品開発パートナーがGHIT Fundとどのように協働しているのかを知ることができて、有用かつ興味深かったです。」

「このイベントに参加して、製品開発に対する強い使命感を感じましたし、さらに多くの貢献をしたいという他の研究者の熱意に触発されました。私自身も、自社がGHIT Fundと連携していることを誇りに思います。」

「通常はメールやテレビ会議だけでコミュニケーションする海外のメンバーと、このR&D Forumで直接会って、コミュニケーションを促進することができました。非常に重要な機会でした。」

「若手研究者や学生にとっては貴重な経験だったと思います。もっと若い人たちにこのようなイベントの存在を知らせるべきだと思います。グローバルヘルス、研究開発、日本のイノベーションの未来を担う存在なのですから。」

「R&D Forumでは、日本の研究者のマインドセットが、国内志向からグローバル志向に急速に変化していることを示していました。」

「プロジェクトの進捗や、パートナーシップの重要性を知ることができてよかったです。」

「日本の研究者のイノベーションとノウハウを輝かせる、ユニークなイベントだったと思います。」

“GHITとは、日本のイノベーションを活用して、低中所得国の患者のための新薬開発を行うアカデミアや企業の科学者や研究者、皆さんのことです。こうした姿をGHIT設立時に思い描いていました。これがまさにGHITです。”

スリングスビー BT
GHIT Fund CEO

GHIT Replenishment

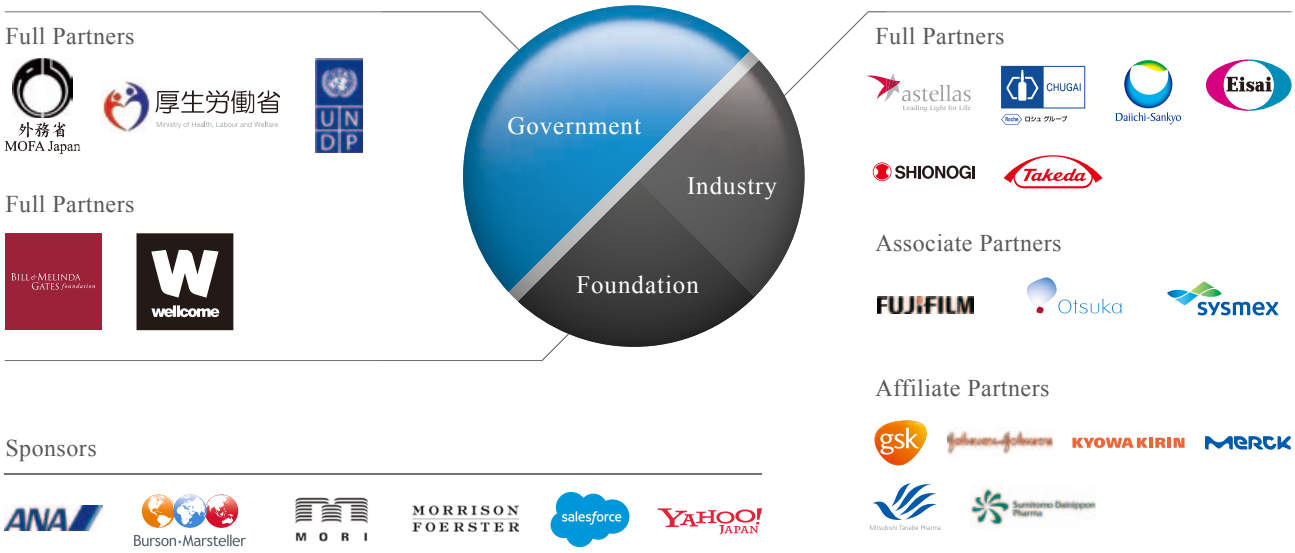
第二期に向けたコミットメントの発表

June 1, 2017

写真左から時計回りで、畑中好彦氏(アステラス製薬株式会社代表取締役社長CEO)、小坂達朗氏(中外製薬株式会社代表取締役社長最高執行責任者)、中山譲治氏(第一三共株式会社代表取締役会長兼CEO)、内藤晴夫氏(エーザイ株式会社代表執行役CEO)、手代木功氏(塩野義製薬株式会社代表取締役社長)、クリストフ ウェバー氏(武田薬品工業株式会社代表取締役社長CEO)、スティーヴン キャディック氏(ウェルカム・トラスト イノベーションディレクター)、日下英司氏(外務省地球規模課題総括課企画官、国際保健政策室長)、黒川清(GHIT Fund会長)、スリングスビー BT (GHIT Fund CEO)、山本尚子氏(厚生労働省大臣官房審議官)、アンドリン オズワルド氏(ビル&メリンダ・ゲイツ財団ライフサイエンスパートナーシップディレクター)

※所属・肩書きは2017年6月1日時点のものです。

Funding Partners and Sponsors for GHIT 2.0 (FY2018-FY2022)



2017年6月1日、GHIT Fundは記者発表会を開催し、資金拠出パートナーから今後5年間（2018年度～2022年度）にわたって200億円に上るコミットメントを確保したことを発表しました。記者発表会に登壇した、会長の黒川清と、CEOのスリングスビー BTは評議委員とともに、日本政府、日本の製薬企業、ビル&メリンダ・ゲイツ財団が協力し、日本に眠っていた創薬技術と能力を活用し、感染症の製品開発を推進することを目的として、マッチングファンドを設立したことを振り返りました。さらに、これまでの実績や投資案件の事例を紹介するとともに、わずか5年間で、日本のイノベーションがグローバルヘルスR&Dに重要なインパクトを与えていることについても言及しました。

手代木功氏（塩野義製薬株式会社代表取締役社長）
2017年6月1日に開催されたGHIT Fund評議会の議長

新たに発表された資金によって、臨床後期にある案件の製品化が実現し、薬を必要とする患者さんの手に届けることが可能になります。投資規模が拡大することで、低中所得国での臨床試験をさらに加速させることができるだけでなく、他の製品開発案件もさらに進めることが可能になります。

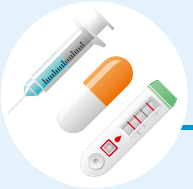
塩野義製薬株式会社代表取締役社長の手代木功氏は、「1つの目標に対して、これだけの期間コミットし続けている官民パートナーシップはなかなかありません。通常、製薬企業のトップが顔を合わせる機会はほとんどありませんが、GHIT Fundに対しては皆さんコミットし続けていますし、熱い思いがあります。」手代木氏は、GHIT Fundとステークホルダー間の連帯感と結束力を強調し、「このモメンタムを継続させていくことが、日本のリーダーシップ、ひいては日本の国際的なプレゼンスの向上につながっていくはずです。」と述べ、日本政府、企業、アカデミアのグローバルヘルスR&Dに対する姿勢がさらに進化していくことに対して期待を述べました。

“この官民パートナーシップが重要なのは、それぞれのリソースやネットワークを最大化することで、新薬開発を推進し、それらを必要とする方々に届けることができるということです。”

スティーヴン キャディック
ウェルカム・トラスト
イノベーションディレクター

Strategic Plan FY2018–FY2022

第二期 ストラテジックプラン

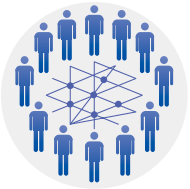


R&D 研究開発の推進と製品化の実現

日本の製薬業界、学術界によるイノベーションの更なる推進

革新的な診断薬への投資（5件）	標的研究	ヒット化合物探索	リード化合物探索	非臨床試験
5件			5件	8件

対象：標的研究プログラム、製品開発プログラム



Excellence through Good Governance

ガバナンスの維持、さらなる強化

コーポレートガバナンスおよび組織のさらなる強化

- 内閣府による検査（3年に1回）
- 内部監査の実施（各年）
- 外部監査人による会計監査（各年）
- 内部規定の評価（3回）

Financial Strategies

財務戦略

投資マネジメントの効率化および共同投資の推進

- 年間予算の管理費を5%以下に維持

  年間予算の管理費を低率に抑えることで、製品開発への投資およびインパクトを最大化。

- GHIT Fundと国内外の助成機関による共同投資比率を1:1に

  共同投資比率 = （GHIT Fundによる投資総額）:（投資総額、in kindを含む。）
  2017年12月現在、共同投資比率は 1:0.5。

第三期に向けた資金調達および投資計画の策定

- 第三期（2023年度～2027年度）に向けた資金拠出パートナーからのコミットメントの確保

  持続可能な組織の運営、製品開発の更なる推進。

GHIT Fundの第二期におけるストラテジックプランは、「研究開発の推進と製品化の実現」、「製品供給を見据えた戦略・パートナーシップの構築」、「ガバナンスの維持、さらなる強化」、「財務戦略」の4項目を重点戦略としています。臨床後期案件に対して積極的な投資を行い、2022年度末までに2製品の規制当局による承認を目指します。

臨床後期案件への積極的な投資

第I相試験	第II相試験 (IIa)	第II相試験 (IIb)	第III相試験	薬事申請
5件 ヒト初回投与試験 (First in Human)の実施	3件 概念実証(Proof of Concept)の達成			2件 規制当局による薬事承認

※実際の臨床試験デザインやPOCのタイミングはレギュラトリーサイエンスに従います。このイラスト表記はあくまでも代表的な例を示すものです。

投資成果の最大化

- 非臨床試験(6件)と臨床試験(4件)のサイトレビュー
- PLSCによる年次ポートフォリオレビューの実施(各年)。

PLSC:ポートフォリオ&ローンチ・ストラテジー・コミッティー。GHIT Fundの理事会内に設置された小委員会で、投資戦略や製品供給戦略について検討を行う。

Partnership for Delivery

製品供給に向けた戦略・パートナーシップの構築

製品供給戦略のレビューおよび評価体制の構築

- PLSC による、臨床後期案件に関する製品供給戦略のレビュー(10件)

国連開発計画(UNDP)および国内外の機関との製品供給準備における連携強化

- UNDPおよび国内外の機関と、臨床後期案件の製品供給戦略を協議(6件)
- 製品開発パートナーおよび関係機関と、当該国における製品供給戦略を協議(6件)
- 製品供給戦略に関する広報活動(20件)

Accelerating Co-investment

2017年12月8日、GHIT Fundと、サハラ以南のアフリカにおける感染症に対する新薬開発の推進ならびに臨床試験を支援するオランダの機関であるThe European & Developing Countries Clinical Trials Partnership(EDCTP)は、小児用プラジカンテル・コンソーシアムが行う、住血吸虫症に対する小児製剤開発の第III相試験に対して共同投資を行うことを発表しました。GHIT Fundは今後も国内外のファンダーとの連携を強め、共同投資を推進し、投資インパクトの最大化を行っていきます。

注意事項:本資料は将来予想に関する記述を含んでおり、十分な資金拠出の確保の可否、研究開発プロセスを通じた新薬の開発状況、許認可の取得等を含む多くのリスク、不確実性その他の要因により、実際の結果は、将来予想に関する記述における予測から大きく乖離する可能性があるため、実現の確約や保証をするものではありません。

FINANCES
財務報告

独立監査人の監査報告書

平成３０年５月７日

公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金
理　事　会　御　中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員　公認会計士　矢崎 弘直

＜財務諸表監査＞
当監査法人は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第２３条の規定に基づき、公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金の平成２９年４月１日から平成３０年３月３１日までの第６期の貸借対照表及び損益計算書（公益認定等ガイドラインⅠ－５(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）並びにその附属明細書並びに財務諸表に対する注記について監査し、併せて、正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

財務諸表等に対する理事者の責任
理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任
当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表等に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。
監査においては、財務諸表等の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表等の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表等の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表等の表示を検討することが含まれる。
当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見
当監査法人は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び損益（正味財産増減）の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

＜財産目録に対する意見＞
当監査法人は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第２３条の規定に基づき、公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金の平成３０年３月３１日現在の第６期の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

財産目録に対する理事者の責任
理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監査人の責任
当監査法人の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

財産目録に対する監査意見
当監査法人は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

利害関係
公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以　上

2017年度　決算書概要

貸借対照表

資産	百万円	百万米ドル
流動資産	¥665.1	$6.3
固定資産	2,361.8	22.2
資産合計	¥3,026.9	$28.5

指定正味財産（資金調達額）	百万円	百万米ドル
受取補助金（政府、国際機関）	¥1,792.0	$16.9
受取補助金（財団）	916.8	8.6
受取寄付金（企業）	1,445.2	13.6
指定正味財産合計（資金調達総額）	¥4,154.0	$39.1

負債及び正味財産	百万円	百万米ドル
負債合計	¥753.4	$7.1
正味財産合計	2,273.5	21.4
負債及び正味財産合計	¥3,026.9	$28.5

指定正味財産（資金調達額）

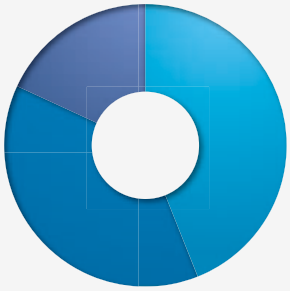
43.1% 受取補助金（政府、国際機関）

22.1% 受取補助金（財団）

34.8% 受取寄付金（企業）

正味財産増減計算書

経常収益	百万円	百万米ドル
受取補助金（政府、国際機関）	¥1,792.0	$16.9
受取補助金（財団）	1,522.6	14.3
受取寄付金（企業）	739.3	7.0
経常収益計	¥4,053.9	$38.2
前期繰越金	¥0	$0



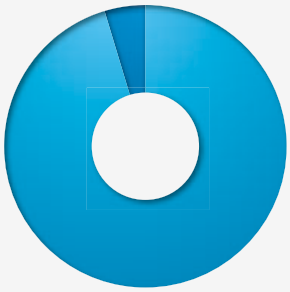
経常収益

44.2% 受取補助金（政府、国際機関）

37.6% 受取補助金（財団）

18.2% 受取寄付金（企業）

経常費用	百万円	百万米ドル
事業費	¥3,907.1	$36.8
管理費	178.7	1.7
経常費用計	¥4,085.8	$38.5



経常費用

95.6% 事業費

4.4% 管理費

当決算書概要の米ドル額は、便宜上、2017年度3月末現在におけるおおよその為替レートである1米ドル=106.25円で計算しています。

本概要は、新日本有限責任監査法人の監査に基づくGHIT Fundの監査済み財務諸表から抜粋したものです。
GHIT Fundは、公益社団法人として日本国内に登記されています。

LEADERSHIP

リーダーシップ

GHIT Fundへの資金拠出パートナーであり、かつGHIT Fundから製品開発の投資を受ける可能性にある製薬企業とGHIT Fundとの間に利益相反が生じないことを目的に、GHIT Fundには厳格なガバナンス体制が敷かれています。GHIT Fundに対する資金拠出パートナーである製薬企業は、GHIT Fundの投資案件の評価や選定、ポートフォリオ・マネジメントなどの意思決定に関する一切の権利を放棄しており、その権利はGHIT Fundの理事会やマネジメントチームに委ねられています。このようなガバナンス体制を導入することで、基金運営の透明性、公平性を確保し、ステークホルダーに対する説明責任を果たしています。

評議会

GHITに資金を拠出している日本政府、財団、民間企業により構成され、評議会と理事会メンバーの選任又は解任、定款の変更、決算書類の承認など、法令又は定款に定められた重要事項の決議を行う。

評議委員
鈴木 秀生
外務省
地球規模課題審議官（大使）

評議委員
池田 千絵子
厚生労働省
大臣官房総括審議官（国際保健担当）

評議委員
トレバー マンデル
ビル＆メリンダ・ゲイツ財団
グローバルヘルスプログラムプレジデント

評議委員
スティーヴン キャディック
ウェルカム・トラスト
イノベーションディレクター

評議委員
アステラス製薬株式会社
畑中 好彦
代表取締役社長CEO

評議委員
エーザイ株式会社
内藤 晴夫
代表執行役CEO

評議委員
塩野義製薬株式会社
手代木 功
代表取締役社長

評議委員
第一三共株式会社
中山 譲治
代表取締役会長兼CEO

評議委員
武田薬品工業株式会社
クリストフ ウェバー
代表取締役社長 CEO

評議委員
中外製薬株式会社
永山 治
代表取締役会長

理事会

グローバルヘルスやマネジメントの領域で豊富な経験を持つエキスパートにより構成され、マネジメントチームの業務を監督し、重要な規程、中期戦略・年次計画及び予算、投資案件の承認など業務執行に係る重要事項の決議を行う。

代表理事・会長
黒川 清
政策研究大学院大学名誉教授
日本医療政策機構代表理事

副会長
ピーター ピオット
ロンドン大学衛生熱帯医学大学院学長
元国連合同エイズ計画（UNAIDS）事務局長

専務理事
スリングスビー BT
公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金
CEO兼専務理事

理事
アン ヴェネマン
元国連児童基金（UNICEF）事務局長
元米国農務長官

理事
梶原 徹
厚生労働省
大臣官房国際課 国際保健・協力室長

理事
鷲見 学
外務省
地球規模課題総括課企画官、国際保健政策室長

理事
マヒマ ダトラ
バイオロジカル・イー・リミテッド社
マネージングディレクター

理事
門間 大吉
元財務省国際局長
元IMF日本代表理事

監事
石黒 光
日本医療政策機構
理事

監事
コー ヤン タン
ハーバードロースクール講師
元世界銀行副総裁兼法律顧問

オブザーバー
キム ブッシュ
ビル＆メリンダ・ゲイツ財団
ライフサイエンス・パートナーシップ
シニアアドバイザー

オブザーバー
リチャード シーブルック
ウェルカム・トラスト
イノベーションズ部門シニアアドバイザー

選考委員会

治療薬、ワクチン、診断薬における研究開発において豊富な知識と経験を持つ国内外のエキスパートにより構成され、プログラム申請者からの申請書、及び進捗報告書の審査・評価を行い、その結果に基づいて、理事会に対して投資案件を推薦する。なお投資プログラムとの利益相反の可能性を排除するため、選考委員会には民間企業の役職員を含んでいない。

選考委員長
北 潔
東京大学名誉教授
長崎大学大学院 熱帯医学・グローバルヘルス研究科
教授・研究科長

選考委員
ラルフ クレメンス
ワクチン専門家

選考委員
デニス シュマッツ
元米国メルク・リサーチ・ラボラトリーズ
感染症研究所所長
元日本MSD研究所所長

選考委員
ケン ダンカン
ビル&メリンダ・ゲイツ財団
Discovery & Translational Sciences部門
次長

選考委員
アン ミルズ ドゥガン
ウェルカム・トラスト
イノベーションズ・ビジネス開発部門
Seeding Drug Discovery Fund統括

選考委員
服部 浩二
名古屋市立大学特任教授
東北大学大学院医学系研究科非常勤講師

選考委員
ゲルド ミシェル
Vela Diagnostics
チーフ・サイエンティフィック・オフィサー

選考委員
森 康子
神戸大学大学院医学研究科
感染症センター臨床ウイルス学教授

選考委員
矢島 綾
世界保健機関西太平洋地域事務所
顧みられない熱帯病 専門官

アドバイザリーパネル

理事会及びマネジメントチームへの戦略的な相談役を担う。

アドバイザー
佐藤 玖美
株式会社コスモ・ピーアール
代表取締役社長

アドバイザー
ロレンゾ サビオリ
元世界保健機関NTDs対策部門
ディレクター

アドバイザー
ピーター シンガー
グランド・チャレンジ・カナダ
CEO

アドバイザー
ハーベイ V ファインバーグ
ゴードン&ベティー・ムーア財団プレジデント
元米国医学研究所所長

アドバイザー
穂積 大陸
Management Science for Health
保健医療技術担当 シニアディレクター

アドバイザー
マイケル ライシュ
ハーバード大学公衆衛生大学院
国際保健政策武見太郎記念講座教授

マネジメントチーム・リーダーシップ

マネジメントチーム・リーダーシップは、事業や投資戦略の策定・具体化、理事会の承認に基づいた戦略の遂行、管理業務の実施、及び組織の成長促進を行う。

スリングスビー BT
公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金
CEO兼専務理事

山部 清明
公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金
Chief Operating Officer

佐藤 正之
公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金
エクスターナル アフェアーズ
ヴァイスプレジデント

鹿角 契
公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金
投資戦略 兼 ガバメント・リレーションズ
シニアディレクター

玉村 文平
公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金
ブランドコミュニケーション
シニアディレクター

髙澤 美保
公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金
ファイナンス
ディレクター

浦辺 隼
公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金
投資戦略・企画 兼 マネジメント
ディレクター

2018年3月31日時点

LEADERSHIP
リーダーシップ

外部審査員

世界中の感染症および製品開発の専門家が、GHIT Fundの外部審査員としてプロポーザルの評価を行っています。

Richard Adegbola
Yukihiro Akeda
Pedro Alonso
Peter Andersen
Rip Ballou
Lewellys Barker
Michael Barrett
Clif Barry
David Bell
Marleen Boelaert
Maria Elena Bottazzi
Walt Brandt
Tom Brewer
David Brown
Martin Brusdeilins
Nick Cammack
Simon Campbell
Eric Chatelain
Philip Cole
Stewart Cole
Simon Croft
Roy Curtiss
Peter Dailey
Christine Debouck
Thierry Diagana
Thomas Dick
Carter Diggs
Boro Dropulic
Filip Dubovsky
David Edwards
Sabine Ehrt
Hiroyoshi Endo
Joel Ernst
Alan Fairlamb
Hermann Feldmeier
David Fidock
JoAnne Flynn
Michael Free
Takashi Fujitsu
Tamio Fujiwara
Nisha Garg
Ricardo Gazzinelli
Ann Ginsberg
Daniel Goldberg
Glenda Gray
Brian Greenwood
Sanjay Gurunathan
R. Kiplin Guy
Lee Hall
Yoshihisa Hashiguchi
Thomas Hawn
Chris Hentschel
D. Gray Heppner
Philip Hill
Toshihiro Horii
Sanjay Jain
Stephen Johnston
Takushi Kaneko
Niranjan Kanesa-thasan
Shigeyuki Kano
Subhash Kapre
Paul Kaye
Naoto Keicho
David Kelso
Kent Kester
Akinori Kimura
Sue Kinn
Harajeshwar Kohli
Somei Kojima
Hidehito Kotani
Peter Kremsner
Sanjeev Krishna
Michael Kurilla
Dennis Kyle
Nancy Le Cam Bouveret
James LeDuc
Carole Long
Timothy Lu
John Mansfield
Greg Matlashewski
James McCarthy
Joseph McCune
James McKerrow
Carl Mendel
Charles Mgone
Gerd Michel
Toshiyuki Miura
Valerie Mizrahi
Melinda Moree
Kouichi Morita
Charles Mowbray
Peter Myler
Daniel Neafsey
Christian Ockenhouse
Giuseppe Pantaleo
David Persing
Meg Phillips
Punnee Pitisuttithum
David Pompliano
Dominic Pucci
Regina Rabinovich
Rino Rappuoli
Zarifah Reed
Rebecca Richards-Kortum
Paul Roepe
Polly Roy
Eric Rubin
Peter Ruminski
Philip Russell
David Sacks
Judy Sakanari
Dirk Schnappinger
Ami Shah Brown
George Siber
KJ Singh
Peter Smith
David Soane
Lynn Soong
Gerald Spaeth
Dan Stinchcomb
Nathalie Strub-Wourgaft
Yasuhiko Suzuki
Marcel Tanner
John Telford
Kaoru Terashima
Katsushi Tokunaga
Nadia Tornieporth
Bruno Travi
Takafumi Tsuboi
Moriya Tsuji
Mickey Urdea
Stephen Ward
Tim Wells
Bruce Weniger
George Whitesides
Samuel Wickline
Judith Wilber
Dyann Wirth
Michael Witty
Paul Wyatt
Kazuhisa Yoshimura
Takeshi Yura
Fidel Zavala
Donato Zipeto

資金拠出パートナー&スポンサー

Full Partners

Associate Partners

Affiliate Partners

Sponsors

The really important work starts now, and we're ready for it.

これから真に重要な仕事が始まりますが、私たちにはその準備が整っています。

GHIT Fund

Global Health Innovative Technology Fund

Ark Hills Sengokuyama Mori Tower 25F,
1-9-10 Roppongi, Minato-ku,
Tokyo 106-0032 Japan
TEL:+81-36441-2032 FAX:+81-36441-2031
www.ghitfund.org